

1 請願の要旨

震災で被災した魚町の倉庫にて2013年よりONEPARK（ワンパーク）というスケートパークを、木の屋石巻水産様のご厚意により活動して参りました。このパークは敷地内のがれきやヘドロを片付けるところからスタートし、セクションはもちろん電気、ガス、水道の取り付けまで、全てをセルフプロデュースと援助により作られました。スケートボードのセクション等も寄与と手作りにより常設しています。また、スケートボードのみならず、バスケットボールや音楽イベント等も積極的に開催し、他ジャンルも織り交ぜながら、被災地だからこそ生まれた強力なエネルギーを発信する文化交流の拠点ともなるよう活動して参りました。

現在は消防法により、不特定多数の方向けの会場としては使用することができず、休止せざるを得ない状況にあります。一方で、2020年の東京五輪からスケートボードが正式種目に加わる事が決定することもあり、日本全国はもちろん石巻でもスケートボードをする子供達が増えている事実があります。しかし、室内で安全に、そして思いきり滑れる場所が石巻には現状ありません。石巻市が只今推進しているスポーツ振興の観点においても課題の一つとなると考えます。

とはいえ、現在ONEPARKは室内のパークとしては全国有数の広さを誇り、観光資源としても貴重な場であると確信しています。被災の爪痕が残るパークとして、全国そして世界から注目されるパークとなるべく、多くの方のご支援・協力を集めながら成長してきました。このままそういった貴重な場を失ってしまうのは、未来を担う石巻の子どもたちの可能性を失ってしまうことだとも考えます。どうしても現状の場での継続が無理となった場合でも、地域の皆さんより集められた存続希望の声を無視したくはありません。

現状の水産倉庫での運営が難しい場合には、石巻市中瀬や、市内の都市計画道路の高架下などで、全国各地での事例を参考に、安全性を担保した運営も視野に入れております。市民の方々から寄せられた声を考慮しても、休止する選択肢はありません。

2 請願の理由

ONEPARKはこれまで、日本全国のスケートボード関係者をはじめ、音楽アーティストなど、幅広く多くの方々より、ご支援および応援を頂き成長してきたパークであり、石巻市において最も注目されている場所の一つとして、多くのメディア等でも取り上げられて参りました。

2020年の東京五輪においてスケートボードの追加種目決定後は、さらにスケートボードに対する熱が、市内はもちろん全国的に高まっており、日本でもプレーヤーはすでに100万人存在しています。そういった社会動向も踏まえ、震災後立ち上がったこの場を一過性のムーブメントとして終わらせてしまっただけではいけないと考えました。子ども達や地域のプレーヤーが安全に気持ち良く滑ることができる場として残してゆく方法を模索しております。

2020年の東京五輪の際には、石巻市の観光資源として、スポーツや文化を学べる場として、そして震災遺構として、世界各地からスケーターや観光客から選ばれる場となるために、ここにONEPARK存続に関する請願書を提出させていただくことと致しました。石巻市がスケートボードの先進地域になれる可能性は十分にあります。